

実務経験のある教員等による授業科目の授業計画（シラバス）

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	前期		
学 科	作業療法科	学 年	1学年		
科目名	医学英語	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20
講師名	石川 陽子	単位時間数	30	単位数	2
講義目標	一般目標				
	臨床現場で使用される医療に関する英語（英単語）、略語を理解して、加齢等の資料を読み取り、対象者の情報を記すことができる。また、国家試験に頻出する疾患名、評価尺度名などにも早期に触れ、英語表記に慣れている。				
	到達目標				
	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション現場でよくみられる疾患や状態、指示に関する単語をある程度理解できる。 ・単語を交えて対象者の状態を表現できる。 ・国家試験にどのような英語表記が存在するのか知っている。 				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	オリエンテーション グループ分け	11	調べたことを発表してみよう プレゼンテーション
2	リハビリテーションとは	12	調べたことを発表してみよう プレゼンテーション
3	人体の基礎知識 運動面、運動方向	13	調べたことを発表してみよう プレゼンテーション
4	人体の基礎知識 運動肢位	14	調べたことを発表してみよう プレゼンテーション
5	対象者の状態を読み取る 対象者の状態を表現する	15	調べたことを発表してみよう プレゼンテーション
6	国家試験の英語表記 分担 調べもの	16	調べたことを発表してみよう プレゼンテーション
7	国家試験の英語表記 調べる 発表準備	17	調べたことを発表してみよう プレゼンテーション
8	国家試験の英語表記 調べる 発表準備	18	調べたことを発表してみよう プレゼンテーション
9	国家試験の英語表記 調べる 発表準備	19	必要な情報をまとめなおそう
10	国家試験の英語表記 調べる 発表準備	20	総括

<p>講義方法</p> <p>主にグループワークとなり，座学，演習など内容によって形式は異なる。 ハンドアウト，辞書，インターネット，Power Pointを使用する。 適宜iPadを使用し，英単語について調べる。</p>
<p>講義で使用する機器・教材</p> <p>ハンドアウト（適宜配布する），PC，プロジェクター iPadは毎回持参すること</p>
<p>履修上の注意事項</p> <p>グループワークがほとんどであるため，自分が欠席することによって他メンバーに与える影響をよく考えること。 早期に英語表記に慣れることを目的としているため，まずは「やってみる」という姿勢で取り組むこと。</p>
<p>成績評価方法</p> <p>出席・授業態度（20％），課題（20％），期末筆記試験（60％）で評価する。 持ち込み可の期末筆記試験の場合，再試験は行わない。 また，出席時数が授業時数の2/3に達しないものは，評価できない。</p>
<p>教科書</p> <p>リハビリテーションの基礎英語 改訂2版</p>
<p>参考書</p> <p>コ・メディカル版 ステッドマン医学辞典 メジカルビュー社</p>
<p>予習復習のアドバイス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・別の講義のノートなどにも覚えた単語を活用し，知識の定着化，実用化を目指す。 ・配布資料は必ずファイリングする。

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	通年		
学 科	作業療法科	学 年	1学年		
科目名	運動学	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	40
講師名	上遠野 純子	単位時間数	60	単位数	4
到達目標	運動学の重要性を説明でき、姿勢・運動・動作を力学的視点で説明出来る。運動学習やその効果を理解し、適切な運動処方や体力測定の実施方法を理解できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	オリエンテーション 運動学とは	16	四肢の運動 上肢－肩③
2	関節運動と運動面・運動軸	17	四肢の運動 上肢－肘・前腕①
3	骨構造の理解（スケッチ）	18	四肢の運動 上肢－肘・前腕②
4	骨構造の理解（スケッチ）	19	四肢の運動 上肢－肘・前腕③
5	姿勢とは 姿勢の分類と表記	20	四肢の運動 上肢－手関節①
6	生体力学と運動学① （力のつりあい、重心と支持基底面①）	21	四肢の運動 上肢－手関節②
7	生体力学と運動学② （力のつりあい、重心と支持基底面②）	22	四肢の運動 上肢－手関節③
8	生体力学と運動学③ （力のつりあい、重心と支持基底面③）	23	四肢の運動 手指・母指の運動①
9	生体力学と運動学④ （運動の種類①）	24	四肢の運動 手指・母指の運動②
10	生体力学と運動学⑤ （運動の種類②）	25	四肢の運動 手の機能障害の診方
11	生体力学と運動学⑥ （力のモーメント①）	26	体幹の構造と機能 脊椎①
12	生体力学と運動学⑦ （力のモーメント②）	27	体幹の構造と機能 脊椎②
13	生体力学と運動学⑧ （仕事、仕事率）	28	体幹の構造と機能 脊椎③
14	四肢の運動 上肢－肩 ①	29	体幹の構造と機能 胸・腹部①
15	四肢の運動 上肢－肩 ②	30	体幹の構造と機能 胸・腹部②

回数	講義内容	回数	講義内容
31	四肢の運動 骨盤・股関節の構造	36	四肢の運動 足関節の運動
32	四肢の運動 骨盤・股関節の運動	37	歩行～歩行の捉え方
33	四肢の運動 膝関節・下腿の構造	38	歩行～正常歩行
34	四肢の運動 膝関節・下腿の運動	39	運動学習①
35	四肢の運動 足関節の構造	40	運動学習②

講義方法

【前期分】授業では、ひとつひとつ重要なキーワードの意味を提示します。各々の情報の整理状況を確認するため、ノートを提出していただきます。また、課題を提示します。期限まで提出下さい。

【後期分】触診や実験を通して身体運動を確実なものとして、捉えられるようにする。

講義で使用する機器・教材

講義では、教科書を使用し、適宜、資料としてプリントを配布します。

視聴覚教材として、DVDやP Cを利用します。Ipadを使用する際は、前もって指示します。

履修上の注意事項

※1) 講義時間内での、記録の整理を集中して行うこと。

※2) 基礎となる非常に重要なもので、解剖学や生理学を何度の繰り返し学習することも必要である。

※3) ノートの提出は、講義終了後すぐに、提出していただきます。(前期のみ)

成績評価方法

【前期分】学期末試験(50%)、講義ノート・課題提出状況(30%)、講義受講態度(20%)によって成績を評価する。

【後期分】レポート課題評定、学期末試験で、評定します。

※通年の科目であるので、前期試験との平均で、総合評定します。

教科書

伊東 元、高橋正明編集 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学

参考書

細田多穂 監修 "運動学テキスト" シンプル理学療法学シリーズ 南江堂

野村 巖 編集 標準理学療法学作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第3版

予習復習のアドバイス

自分でわからないことがあったら、そのままに放置せず、必ずわかるまで、調べる。わかるまで聞くこと。それも、その時、その日のうちに。

放置している時間が長ければ、それだけわからないことが増えてくる。

完全に理解するまで、何度でも調べ、聞いて、自分のものとしてください。

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	前期		
学 科	作業療法学科	学 年	2学年		
科目名	運動学実習	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	30
講師名	上遠野 純子	単位時間数	45	単位数	1
到達目標	実習を通して、人の運動・動作の特徴とそれに伴う諸現象を理解する。運動と動作に関して、観察・測定・分析に初歩的手段を体験し、その結果をレポートとしてまとめる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	運動学実習にあたって レポート作成について	16	実験⑤－ii 立ち上がり動作 端坐位と車椅子坐位からの立ち上がりの差異
2	口頭試問1－① 全身の関節運動名（記憶実習）	17	実験⑤の検証
3	口頭試問2-① 起き上がり動作と関節運動（記憶実習）	18	実験⑤のフィードバック
4	口頭試問2-② 起き上がり動作と関節運動（記憶実習）	19	実験⑥ 機能的リーチテストと座位 での前方リーチテストの差異
5	口頭試問2-③ 起き上がり動作と関節運動（記憶実習）	20	実験⑥の検証
6	実験①肩関節の可動域計測 他動運動と自動運動の比較	21	バイタル測定演習
7	実験①肩関節の可動域計測 他動運動と自動運動の比較	22	バイタル測定演習
8	実験②膝関節と股関節の可動域計測 2 関節筋の影響	23	運動負荷試験演習① マスター階段昇降検査
9	実験①と②の検証	24	運動負荷試験演習② マスター階段昇降検査
10	実験①、②のフィードバック	25	運動負荷試験演習③ 上肢運動負荷試験（重量負荷による）
11	実験③ 筋力検査 肢位と最大筋力の考察	26	運動負荷試験演習④ 上肢運動負荷試験（重量負荷による）
12	実験④ 筋力検査 標準テストと迅速テスト	27	運動負荷試験の意義
13	実験③と④の検証	28	運動負荷試験のフィードバック
14	実験③と④のフィードバック	29	実験⑦ 反応時間測定
15	実験⑤－i 端坐位姿勢と車椅子姿勢 前額面と矢状面の差異	30	実験⑦ 反応時間測定

講義・実習方法

レポートの書き方、口頭試問について、実験方法等を開始前に説明しますが、後は自ら考え行動して下さい。

グループでの演習や2人1組になったの演習になります。

講義で使用する機器・教材

IPadは必ず持参して下さい。

履修上の注意事項

※解剖学・生理学・骨格筋測定法、作業療法評価学、運動学の教科書を実験により使い分けます。

※口頭試問は質問に口頭で答えてもらう課題です。出来るまで何度でも行います。全問正解を求めます。

※実験ごとにレポートを提出してもらいます。提出期限は指示します。提出日に遅れたものは評価しません。

※ケシー型白衣を着用下さい。基本的には12階義肢装具科工室にて演習を行いますが、適宜場所を変更しますので、連絡事項を確認ください。

成績評価方法

※口頭試問とグループ発表もしくは個人レポート課題提出にて評価します。

教科書

伊東 元 高橋 正明編集 標準理学療法学・作業療法学 運動学 医学書院

澤田雄二 編集 基礎作業学 改訂第3版 (作業療法学全書第2巻) 医歯薬出版

生田宗博 編集 作業療法評価学 改訂第3版 (作業療法学全書第3巻) 医歯薬出版

参考書

中村隆一 他 編集 運動学実習 第3班 医歯薬出版

鎌倉矩子 編 PT・OT学生のための運動学実習 三輪書店

予習復習のアドバイス

解剖学・生理学・骨格筋測定法・作業療法評価学・基礎作業学・運動学などの基礎となる知識を復習しながら、わかるまで、納得するまで、解決する姿勢で望むこと。

講義要項（シラバス）

年 度	2019 年度	時 期	前期		
学 科	作業療法科	学 年	1学年		
科目名	人間発達学	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20
講師名	清水 逸	単位時間数	30	単位数	2
講義目標	一般目標				
	ライフステージ（胎児期、乳児期、幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期）を通じた人間理解のために、それぞれの発達過程を学ぶ。				
	到達目標				
	I. 胎生期における発達過程について理解する。 ①受精メカニズム②機能・形態的变化について説明できる。 II. 乳児期、幼児期、児童期における発達過程について理解する。 ①運動発達②認知発達③言語発達④ADL⑤社会性（対人関係）について説明できる。 III. 青年期、成人期、老年期における発達過程について理解する。 ①身体構造の変化②生理機能の変化③心理・社会的変化について説明できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	「ノートを作る」「理解する」 発達とは、生得説と経験説	11	「ノートを作る」「理解する」 II ①乳児・幼児期：目と手の発達
2	「ノートを作る」「理解する」 ライフステージ、発達の原則	12	「ノートを作る」「理解する」 II ②乳児・幼児期：認知機能の発達
3	「ノートを作る」「理解する」 I 胎生期：受精メカニズム、機能形態変化	13	「ノートを作る」「理解する」 II ③乳児・幼児期：言語発達
4	「ノートを作る」「理解する」 体位、姿勢、姿勢変換、移動	14	「ノートを作る」「理解する」 II ④乳児・幼児期：ADLの発達
5	「ノートを作る」「理解する」 II ①中枢階層性、乳児期：反射・反応	15	「ノートを作る」「理解する」 II ⑤乳児・幼児期：社会性の発達
6	「ノートを作る」「理解する」 II ①乳児期：背臥位→寝返りの発達	16	「ノートを作る」「理解する」 J D D S T、遠城寺式発達検査
7	「ノートを作る」「理解する」 II ①乳児期：腹臥位→ハイハイの発達	17	「調べてまとめる」「説明できる」 III ①②③幼児期・児童期
8	「ノートを作る」「理解する」 II ①乳児期：座位→立ち上がりの発達	18	「調べてまとめる」「説明できる」 III ①②③青年期
9	「ノートを作る」「理解する」 II ①乳児期：立位→歩行の発達	19	「調べてまとめる」「説明できる」 III ①②③成人期
10	「ノートを作る」「理解する」 中間試験	20	「調べてまとめる」「説明できる」 III ①②③老年期

講義方法
座学・課題演習
講義で使用する機器・教材
i Pad、プロジェクター、配布資料
履修上の注意事項
<p>1. 2年時、発達障害作業療法学と治療学の時に復習し、利用します。</p> <p>2. ファイルとノートを用意して、資料をファイルに整理する。そしてノートを取り、後で、まとめ直したり、覚えやすいように整理したりしてください。</p> <p>【ファイルとノートの提出日】 ※できる限り早めの提出を心がけてください。 その場で確認し、指導し、返却します。提出ギリギリは極力やめましょう。待つこととなります。</p> <p>第1回目：授業1回目～4回目の提出日5月17日（金）17:00まで 第2回目：授業5回目～9回目の提出日6月7日（金）17:00まで 第3回目：授業10回目～15回目の提出日7月19日（金）17:00まで 第4回目：授業16回目～20回目の提出日9月20日（金）17:00まで</p>
成績評価方法
<p>1. ファイル・ノート提出し指導を受けたら、中間試験と期末試験の受験を許可します。</p> <p>2. 中間試験50%、期末試験50%の点数を基本として、総合的に評価いたします。</p>
教科書
岩崎清隆 執筆 “人間発達学”第2版 標準理学療法学・作業療法学 医学書院
参考書
<p>伊藤元、高橋正明 編集 “運動学” 標準理学療法学・作業療法学 医学書院</p> <p>上田礼子 人間発達学 第2版 医歯薬出版株式会社</p> <p>大城昌平 リハビリテーションのための人間発達学 第2版 メディカルプレス</p>
予習復習のアドバイス
<p>1. ファイル・ノートを整理整頓し、資料などは決してなくさないようにしてください。なくした場合には、遠慮せずすぐに言ってください。</p> <p>2. 課題や問題が理解できない分からない時は、すぐに聞いてください。何度もあきらめず繰り返し聞いて、分かるまで粘り強く聞いてください。</p> <p>3. 暗記するため分かりやすくまとめ直す、調べてまとめ直し、暗記して、書いてみる。その繰り返し。</p>

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	前期		
学 科	作業療法学科	学 年	1学年		
科目名	リハビリテーション概論	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20
講師名	藤井 貴	単位時間数	30	単位数	2
到達目標	リハビリテーションサービス体系の変革はめまぐるしいが、リハビリテーションが掲げた理念、目的に変更はないことを共有し、リハビリテーションを構成している諸領域や施設とその役割、それらを支えている概念を理解し、臨床実習や卒業業務にいかせる知識を修得する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	リハビリテーションの定義・歴史 理学療法士および作業療法士法	11	クリニカルパス
2	リハビリテーション介入の流れ ～病気と障害 / 急性期・回復期・維持期～	12	障害受容 ① ～分類～
3	リハビリテーション関連職種とその役割 チームアプローチ・リハ手段	13	障害受容 ② ～専門職の対応～
4	評価会議とゴール設定 ①	14	参加制約へのアプローチ ～家族と家庭～
5	評価会議とゴール設定 ②	15	QOL バリアフリー
6	国際疾病分類 (ICD)	16	社会参加を支える制度 ① ～障害者基本法～
7	国際生活機能分類 (ICF) ①	17	社会参加を支える制度 ② ～障害者差別解消法～
8	国際生活機能分類 (ICF) ②	18	自立生活 (IL)
9	国際生活機能分類 (ICF) ③	19	総合リハビリテーション
10	ノーマライゼーション	20	リハビリテーション諸相 ～医学的・教育的・職業的・社会的・地域～

成績評価方法

期末試験 100%

参考書

教科書 「入門リハビリテーション概論」 中村隆一・佐直信彦編

教科書 「よくわかるリハビリテーション」 江藤文夫編

予習復習のアドバイス

講義内容に合わせてファイルチェックを行います。（評定に含めます。）

授業で配布されたプリント資料などを内容別に整理しテストに利用できやすいようにする。

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	前期		
学 科	作業療法科	学 年	1学年		
科目名	作業療法概論	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20
講師名	上遠野 純子	単位時間数	30	単位数	2
到達目標	作業療法実践を知ることの中で、生活と作業との関係や作業療法士の役割を理解する。領域別・病期別の作業療法過程を学び、リハビリテーションにおける作業療法の位置づけを理解する。また、職業人として職業倫理を高める。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	オリエンテーション 作業療法士に求められる資質	11	グループワーク① 作業療法をもっと多くの人に知ってもらおう
2	作業療法とは (目的・対象・治療手段)	12	グループワーク② 作業療法をもっと多くの人に知ってもらおう
3	生活と作業① (ライフサイクルと環境)	13	グループワーク③ 作業療法をもっと多くの人に知ってもらおう
4	生活と作業② (ライフサイクルと環境～グループ演習)	14	グループワーク④ 作業療法をもっと多くの人に知ってもらおう
5	作業療法の歴史 (日本の作業療法の歴史、現状と課題)	15	作業療法部門の管理運営 関連法規
6	作業療法の実際 (医療領域～急性期)	16	職業人としての倫理 職能組織としての活動（生涯教育）
7	作業療法の実際 (医療領域～回復期)	17	作業の治療的意味 作業療法理論
8	作業療法の実際 (福祉領域)	18	作業の治療的意味 作業療法理論
9	作業療法の実際 教育支援領域	19	まとめ、試験対策
10	作業療法の実際 (生活期～終末期)	20	試験

講義方法

講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料としてプリントを配布する。

講義で使用する機器・教材

プリント（当日配布する）、PC、プロジェクター

成績評価方法

学期末試験（70%）や出席率（20%）と併せて、グループワーク課題・授業態度（10%）によって成績を評価する。また適宜レポート作成を行い、評定のための資料とする。

教科書

作業療法学全書改定第3版 作業療法概論

予習復習のアドバイス

事前に教科書を読んで、予習をすること。

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	後期		
学 科	作業療法学科	学 年	1学年		
科目名	基礎作業学	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20
講師名	上遠野純子／酒井良隆／矢野大輔	単位時間数	30	単位数	2
講義目標	一般目標				
	基礎作業学の作業療法の中での位置づけを理解したうえで、各種理論を理解しそして実践的応用を理解する。				
	到達目標				
	一 基礎作業学・作業の位置づけを理解する。 二 対象者の状態を理解するための分析法を習得する。 三 演習の中で、ICFの概念と構造を理解する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	オリエンテーション 基礎作業学の定義	11	ICF概要、ICF内容理解 精神機能的理解～動機づけとは（酒井）
2	基礎作業学の定義	12	ICF概要、ICF内容理解 感情と行動（酒井）
3	作業バランス	13	ICF概要、ICF内容理解 個人因子の分析：演習
4	作業バランス	14	演習：実習セミナー グループ演習、発表
5	ICF概要、ICF内容理解 心身機能・身体構造	15	演習：実習セミナー グループ演習、発表
6	ICF概要、ICF内容理解 活動について（ライフサイクルと活動）	16	演習：実習セミナー グループ演習、発表
7	ICF概要、ICF内容理解 活動について（ライフサイクルと活動）	17	演習：実習セミナー グループ演習、発表
8	ICF概要、ICF内容理解 参加について	18	演習：実習セミナー グループ演習、発表
9	ICF概要、ICF内容理解 参加について	19	演習：実習セミナー グループ演習、発表
10	ICF概要、ICF内容理解 環境因子について	20	試験

講義方法

座学、グループ演習、自己課題演習と内容によって講義スタイルを変更します。

講義で使用する機器・教材

必要に応じてI P a dを使用する。担当教務に使用の有無をその都度確認のこと。

履修上の注意事項

作業療法の実践のための基礎となる理論であるため、十分に理解する必要がある。

適宜演習を行うため、指示に従って行動すること。

成績評価方法

学期末試験（50％）、演習レポート課題（40％）、授業態度（10％）で評定する。

教科書

澤田雄二 編集 基礎作業学 改訂第3版 （作業療法学全書第2巻） 医歯薬出版

参考書

二木淑子 能登真一 編集 作業療法概論（標準作業療法学） 医学書院

吉川ひろみ 「作業」ってなんだろう 作業科学入門 第2版 医歯薬出版

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	通年		
学 科	作業療法科	学 年	1学年		
科目名	基礎作業学実習Ⅰ	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	30
講師名	藤井 貴 矢野 大輔	単位時間数	45	単位数	1
到達目標	* 作業療法で利用される作業活動を経験し、特性や人・環境との影響も説明できる。 * 対象に応じた課題の設定や段階づけが行える。 * 集団や個別の特性を経験しその説明ができる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	オリエンテーション 科目で学ぶこと	16	ネット手芸② 教室の表示を作成 時間内にできましたか？
2	作業について 「作業療法の 作業 って？」	17	散歩・外出① 計画立案
3	生活動作と作業① 生活動作とは何か考える。	18	散歩・外出② 計画立案
4	生活動作と作業② 不自由さを克服する為に	19	散歩・外出③ いざ出発！
5	木工① 道具の名前と使い方 「正しく使うとこんなに便利！」	20	散歩・外出④ 四季を感じてコミュニケーション
6	木工② 設計&採寸 移動式ラック、タイルモザイクの枠を作ろう！！	21	レクリエーション① 音楽を用いた活動とは
7	木工③ 作成 使い勝手は？見た目は？	22	レクリエーション② 音楽をどう用いるか
8	木工④ 作成&分析 木工の特徴ってなんだろう？作業分析。	23	レクリエーション③ 経験してみよう
9	タイルモザイク① タイルを割って作品作り	24	レクリエーション④ 経験してみよう
10	タイルモザイク② 間もなく完成かな？	25	園芸に挑戦 みんなで植えてみよう
11	革細工① コースター 革の特徴 は？思い通りに作るコツは？	26	園芸に挑戦 どうやって管理するか
12	革細工② コースター スタンピング・カービング 色々な方法の実践	27	調理① 計画立案
13	革細工③ キーホルダー ストラップ付け・レーシングで 完成品 に	28	調理② 計画立案
14	革細工④ キーホルダー 革細工を OTの目線 で振り返ろう	29	アクティビティ考案1-① 自分達で訓練用具を考えよう
15	ネット手芸① 教室の表示を作成 どんな色？どんな模様？	30	アクティビティ考案1-② 自分達で訓練用具を考えよう

補講

回数	講義内容	回数	講義内容
1	アクティビティの発表 考案した活動の発表	4	調理④ 分析
2	アクティビティの発表 考案した活動の発表	5	アクティビティの施行と教授 作業の治療的な活用とは
3	調理③ とん汁、炊き込みご飯、サラダ	6	アクティビティの施行と教授 作業の治療的な活用とは

講義方法

実技と講義形式を混合に行います。

履修上の注意事項

時間内に課題を終了できるように、集中して取り組むこと。

周囲への配慮をしながらケガのないよう安全に実習をする事を留意する。

物品の整理整頓をすること 実習室（教室）の清掃を全員で実施すること。

グループワークの多い講義となっているため、欠席することによるグループワークの進行やグループメンバーへ与える影響をよく考えること

成績評価方法

作業課題（60％）・授業態度（減点方式）・レポート課題（40％）にて評価する。

また、出席時数が授業時数の2/3に達しない場合、成績評価できない。

参考書

作業-その治療的応用 日本作業療法士協会編集 協同医書出版社

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	前期		
学 科	作業療法科	学 年	2学年		
科目名	基礎作業学実習Ⅱ	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	30
講師名	石川 陽子／淀川 裕美／酒井 良隆	総時間数	45	単位数	1
講義目標	一般目標				
	作業療法の治療手段として「作業・作業活動」を活用するため、作業分析によって様々な作業の理解を深め、対象者に必要な形に応用して実施・指導することができる。				
	到達目標				
	作業分析によって作業活動そのものが持つ特性や人や環境に与える影響を説明できる。 対象や目的に応じ、作業活動を通じた課題や段階設定が行えるようになる。 作業活動を企画・運営・実行することができる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	オリエンテーション 対象者像の理解	16	アクティビティの分析②
2	対象者像の理解 Group学習	17	アクティビティの実施③
3	対象者像の理解（プレゼン） 行動特性についてFB	18	アクティビティの分析③
4	対象者像の理解（プレゼン） 行動特性についてFB	19	アクティビティの実施④
5	アクティビティの開発①	20	アクティビティの分析④
6	アクティビティの開発②	21	アクティビティの実施⑤
7	アクティビティの開発③	22	アクティビティの分析⑤
8	アクティビティの開発④	23	アクティビティの実施⑥
9	アクティビティの開発⑤	24	アクティビティの分析⑥
10	アクティビティの開発⑥	25	プレゼンテーション①
11	観察の方法	26	プレゼンテーション②
12	観察の方法	27	プレゼンテーション③
13	アクティビティの実施①	28	プレゼンテーション④
14	アクティビティの分析①	29	プレゼンテーション⑤
15	アクティビティの実施②	30	プレゼンテーション⑥

講義方法

講義内容によって、実習、講義、プレゼンテーションなどの講義形式をとる。

講義で使用する機器・教材

適宜、資料としてハンドアウトを配布する。

履修上の注意事項

備品を多く使用する授業のため、物品管理、整理整頓を常に心がけること。

授業終了後には必ず掃除をすること。

グループワークの多い講義となっているため、欠席することによるグループワークの進行やグループメンバーへ与える影響をよく考えること。

実習内容に合わせた服装で出席すること。

成績評価方法

課題実施状況（50%）、態度（35%）、出席（15%）で評定する。

また、出席時数が授業時数の2/3に達しない場合、成績評価できない。

教科書

基礎作業学実習ガイドー作業活動のポイントを学ぶ。

参考書

特に指定しない。

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	前期		
学 科	作業療法科	学 年	3学年		
科目名	研究法	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20
講師名	石川陽子 上遠野純子	単位時間数	30	単位数	2
到達目標	研究活動は専門職としての作業療法士にとって大切な業務の一部である理由を理解した上で、研究活動を遂行し、結果を臨床に利用して、さらに報告・発表するために必要な基本的知識と技能を獲得する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	作業療法における研究 研究は誰が何のためにするものなのか	11	学会発表の基礎知識
2	研究の手順 研究疑問 研究倫理	12	統計解析の基礎知識
3	研究の種類・概観 目的による類型 手法による類型	13	統計解析の基礎知識
4	質的研究の基礎知識	14	研究の実際
5	質的研究の実践 ※課題提示	15	研究の実際
6	質的研究の実践 ※課題提出	16	研究の実際
7	文献の種類と文献検索 ※課題提示	17	研究の実際
8	実験研究の基礎知識 変数	18	画像診断学
9	SSDの基礎知識 ※課題提出【一時評定】	19	画像診断学
10	調査研究の基礎知識 種類 尺度 尺度の構成	20	画像診断学

講義方法

主に座学での講義となり、教科書、PowerPoint、iPadを使用する。
講義内容によってはグループを組んで演習を行うこともある。

講義で使用する機器・教材

ハンドアウト（適宜配布する）、PC、プロジェクター

履修上の注意事項

グループでの演習も行うことがあるため、自分の欠席がほかのグループメンバーや課題に与える影響をよく考えること。

成績評価方法

課題70%、出席・態度30%で評定する。
また、出席時数が授業時数の2/3に達しないものは、評価できない。

教科書

標準作業療法学専門分野 作業療法研究法/医学書院

予習復習のアドバイス

研究手法についてのみならず、自分の頭の中を分析・整理する時間として取り組んでほしい。

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	後期		
学 科	作業療法科	学 年	1学年		
科目名	作業療法評価学総論	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20
講師名	藤井 貴、矢野 大輔	単位時間数	30	単位数	2
講義目標	一般目標				
	作業療法評価の内容（観察・測定・検査）を確実に習得する。				
	到達目標				
	近年の作業療法の現状を知り、その中で用いられる作業療法評価の具体的内容や測定機器について理解できる。検査などで得られた情報から、今後の治療にどう役立てていくかを整理し、まとめることが出来る。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	作業療法評価の目的 作業療法と評価/人と作業活動/評価とは	11	心身機能・身体構造 呼吸・循環・代謝機能、全身持久力
2	時期と手順 評価の対象/評価の種類	12	心身機能・身体構造 運動（体力）
3	時期と手順 評価の基本技術/観察・測定・検査・試験	13	活動・参加 動作能力評価
4	時期と手順 評価と解釈/プログラム立案/評価記録	14	活動・参加 日常生活活動評価（総論）
5	背景因子（個人因子・環境因子） ニーズと作業遂行	15	活動・参加 日常生活活動評価（FIM）
6	背景因子（個人因子・環境因子） 意味の持つ作業	16	活動・参加 日常生活活動評価（FIM）
7	心身機能・身体構造 感覚	17	活動・参加 日常生活活動評価（FIM）
8	心身機能・身体構造 痛みの分類	18	活動・参加 職業能力評価/障害者雇用
9	心身機能・身体構造 摂食・嚥下	19	演習
10	心身機能・身体構造 呼吸・循環・代謝機能、全身持久力	20	学期末試験

講義方法

講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料としてプリントを配布する。

講義で使用する機器・教材

プリント（当日配布する）、PC、プロジェクター

履修上の注意事項

適宜、測定機器を使用するため、取り扱いについては教員の指示を受けること。
破損などがあった場合は、速やかに申し出ること。

成績評価方法

学期末試験（100％）によって成績を評価する。
また適宜レポート作成を行い、評定のための資料とする。

教科書

作業療法学全書改訂第3版 作業療法評価学

予習復習のアドバイス

事前に教科書を読んで、予習をすること。

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	後期		
学 科	作業療法学科	学 年	1 学年		
科目名	骨格関節筋系測定法	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	30
講師名	藤井 貴 矢野 大輔	単位時間数	45	単位数	
講義目標	一般目標				
	作業療法分野における測定・評価方法（形態測定・反射・ROM・MMT）を正しく理解する。				
	到達目標				
	①対象者へのプログラム立案および目標設定の際の重要な情報の一つとして認識する。 ②対象者の身体状況を可能な限り客観的に抽出し、的確に測定・評価を行い、臨床実習および治療にいかせる知識を修得する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	形態測定①講義 総論・四肢長・周径	16	ROM測定②実技 下肢②
2	形態測定②実技 四肢長・周径	17	ROM測定（上肢） まとめ
3	反射検査①講義 深部反射・表在反射・病的反射	18	ROM測定（上肢） まとめ
4	反射検査②実技 深部反射・表在反射・病的反射	19	ROM測定（下肢） まとめ
5	ROM測定①講義 総論・上肢（肩甲帯）	20	ROM測定（下肢） まとめ
6	ROM測定②実技 上肢（肩甲帯）	21	MMT測定①講義 肩関節
7	ROM測定③講義 上肢（肩関節）	22	MMT測定②実技 肩関節
8	ROM測定④実技 上肢（肩関節）	23	MMT測定③講義 肘関節/前腕
9	ROM測定⑤講義 上肢（肘関節・前腕・手関節）	24	MMT測定④実技 肘関節/前腕
10	ROM測定⑥講義 上肢（肘関節・前腕・手関節）	25	MMT測定⑤講義 手関節/手指
11	ROM測定⑦講義 上肢（手指）	26	MMT測定⑥実技 手関節/手指
12	ROM測定⑧実技 上肢（手指）	27	MMT測定⑦講義 下肢①
13	ROM測定⑨講義 下肢①	28	MMT測定⑧講義 下肢①
14	ROM測定⑩実技 下肢①	29	MMT測定⑨講義 下肢②
15	ROM測定⑪講義 下肢②	30	MMT測定⑩講義 下肢②

<p>講義方法</p> <p>講義形式の授業で基礎知識を理解する。 実技を通して的確に測定・評価を行えるようにする。</p>
<p>講義で使用する機器・教材</p> <p>教科書 プリント 骨・筋標本</p>
<p>履修上の注意事項</p> <p>実技演習の際は積極的に体験するように努める事 実習着（ケーシー）着用、身なりを整える（不十分な場合は適宜、修正を加える）</p>
<p>成績評価方法</p> <p>実技テスト 70% 出席率 課題 30%</p>
<p>教科書</p> <p>PT・OTのための測定評価（ROM測定・形態測定・反射検査・MMT）</p>
<p>参考書</p> <p>ベッドサイドの神経の診かた 新・徒手筋力検査法</p>
<p>予習復習のアドバイス</p> <p>授業で配布されたプリント資料などを内容別に整理して、後日利用できるようにする。</p>

講義要項（シラバス）

年 度	2019 年度	時 期	前期		
学 科	作業療法学科	学 年	2学年		
科目名	身体障害作業療法評価学	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20
講師名	藤井貴／淀川 裕美／矢野 大輔	単位時間数	30	単位数	2
講義目標	一般目標				
	身体障がい領域における作業療法について、その実践過程を理解する。疾患別にその病態や障がい像を理解し、行うべき評価の手順を習得し、目標設定を行うことが出来る。				
	到達目標				
	身体障がい作業療法の現状を知り、その中で用いられる作業療法評価の具体的内容や測定機器について理解できる。評価のために行う観察、検査、測定、試験を的確に実施することが出来る。 検査などで得られた情報から今後の治療にどう役立てていくかを整理し、まとめることが出来る。 基礎知識（解剖、運動、生理）を関連付けた評価目的を理解し遂行できる準備を行う。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	作業療法と評価、OTの役割、病期別	11	動作分析
2	OT評価の流れ、評価項目、関連法規	12	上肢機能検査（B r stage、MFT）
3	記録・報告の意義と特徴	13	上肢機能検査（B r stage、MFT）
4	面接、観察	14	協調性検査
5	形態計測	15	協調性検査
6	関節可動域測定	16	統合と解釈/テストバッテリー/予防評価
7	筋力検査	17	統合と解釈/テストバッテリー/予防評価
8	感覚検査	18	統合と解釈/テストバッテリー/予防評価
9	筋緊張検査/ 反射検査	19	脳血管疾患の作業療法
10	姿勢反射検査	20	脳血管疾患の作業療法

<p>講義方法</p> <p>講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料としてプリントを配布する。</p>
<p>講義で使用する機器・教材</p> <p>PC、プロジェクター</p>
<p>履修上の注意事項</p> <p>提示資料の内容だけではなく、講義内容を忘れない為にも記録をとる。 課題レポートは評価対象となる為、必ず提出する。 課題提出に関しては時間厳守、期日を守ることを周知する。 評価方法実技を踏まえ理解する。 実技指導を加える為、実習着での講義がある。</p>
<p>成績評価方法</p> <p>実技試験（50％）学期末試験（50％）で成績を評価する。 授業態度、実技参加態度も評定の対象とする。 また適宜レポート作成を行い、評定のための資料とする。</p>
<p>教科書</p> <p>作業療法学全書改訂第3版 作業療法評価学、標準作業療法学 作業療法評価学第3版</p>
<p>参考書</p> <p>作業療法学全書改定第3版 作業療法治療学1 身体障害 理学療法評価学 第4版 金原出版 リハビリテーション基礎評価学 第1版 羊土社</p>
<p>予習復習のアドバイス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書に合わせて講義を進める為、計画的に予習を行う。 ・講義での疑問、質問に関しては放置することなく迅速に対応する。 ・ipadを活用し、学習効果を高める。 ・評価実習で活用できるよう知識、技術の蓄積を行う。

講義要項（シラバス）

年度	2019年度	時期	前期		
学科	作業療法科	学年	2学年		
科目名	高次脳機能障害作業療法評価学	講義曜日	時間割参照		
			時間割参照	講義回数	20
講師名	淀川 裕美	単位時間数	30	単位数	2
講義目標	一般目標				
	高次脳機能障害の評価指標の臨床活用について学ぶ。				
	達成目標				
作業療法士が援助する高次脳機能障害者に対する評価の考え方と実践方法を身につけ、臨床実習や卒業業務に生かすことができる。					

回数	講義内容	回数	講義内容
1	高次脳機能障害の基礎知識① ～高次脳機能障害とは～	11	高次脳機能障害 半側空間無視①～半側空間無視とは～
2	高次脳機能障害の基礎知識② ～脳の障害部位と症状の関連～	12	高次脳機能障害 半側空間無視②～検査と評価～
3	失語症 失語症①～失語症とは～	13	高次脳機能障害 記憶障害①～記憶障害とは～
4	認知障害 失語症②～検査と評価～	14	高次脳機能障害 記憶障害②～検査と評価～
5	認知障害 失行①～失行とは～	15	高次脳機能障害 遂行機能障害・前頭葉症状～遂行機能障害・前
6	認知障害 失行②～検査と評価～	16	高次脳機能障害 遂行機能障害・前頭葉症状～検査と評価～
7	認知障害 失認①～失認とは～	17	高次脳機能障害 ～感情と行動の障害とは～
8	認知障害 失認②～検査と評価～	18	患者に対する家族や支援者の接し方
9	高次脳機能障害 注意障害①～注意障害とは～	19	画像に見る高次脳機能障害 CT・MRIによる脳画像
10	高次脳機能障害 注意障害②～検査と評価～	20	画像に見る高次脳機能障害 脳画像の症例集

参考書

作業療法治療学5 「高次脳機能障害」 協同医書出版社

予習復習のアドバイス

授業で配布されたプリント資料などを内容別に整理して後日テストに利用できやすいようにする。

成績評価方法

学期末試験（100％）によって成績を評価する。

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	通年		
学 科	作業療法学科	学 年	2 学年		
科目名	精神障害作業療法評価学	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20
講師名	酒井 良隆	単位時間数	30	単位数	2
講義目標	一般目標				
	精神障害領域における作業療法について、その実践過程を理解する。				
	到達目標				
	精神障害作業療法における、様々な評価手段について理解し、実施することができる。 作業療法における、基本的な視点と方法について理解する。 精神障害作業療法における、歴史的背景を理解する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	オリエンテーション 評価とは	11	作業面接（講義）
2	観察について	12	作業面接（演習）
3	観察計画	13	作業面接（講義）
4	観察振り返り①	14	作業面接（演習）
5	観察振り返り②	15	精神障害作業療法の歴史的背景
6	観察振り返り③	16	ライフサイクルと生活課題
7	観察振り返り④	17	作業・作業活動を介した 回復支援と生活支援
8	集団とその治療的応用（講義）	18	自己分析（講義）
9	集団とその治療的応用（演習）①	19	自己分析（演習）①
10	集団とその治療的応用（演習）②	20	自己分析（演習）②

<p>講義方法</p> <p>講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料データまたはプリントを配布する。 演習では、講義内容及び資料を生かして実際に体験する。</p>
<p>講義で使用する機器・教材</p> <p>PC、プロジェクター、iPad</p>
<p>履修上の注意事項</p> <p>資料のみでなく、話している内容など、どんどん情報を蓄積すること。 ※ゆっくりとやっている時間はありません。その時、その時に早い判断が求められます。</p>
<p>成績評価方法</p> <p>学期末試験（100％）によって成績を評価する。</p>
<p>教科書</p> <p>標準作業療法学 専門分野 精神機能作業療法学 第2版 医学書院</p>
<p>参考書</p> <p>作業療法学全書改訂第3版 作業療法評価学 協同医書出版 精神障害と作業療法 第3版 三輪書店 作業療法学全書改定第3版 作業療法治療学2 精神障害 協同医書出版 ひとと集団・場 ひとの集まりと場を利用する 第3版</p>
<p>予習復習のアドバイス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に教科書、資料データを読んで、予習をすること。 ・自分でわからないことがあったら、そのままに放置せず、必ずわかるまで調べるか、わかるまで聞くこと。それも、その時、その日のうちに。 ・放置している時間が長ければ、それだけわからないことが増えてくる。

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	前期		
学 科	作業療法科	学 年	2学年		
科目名	発達障害作業療法評価学	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20
講師名	上遠野 純子	単位時間数	30	単位数	2
一般目標	各時期の発達過程における作業療法評価法を理解する。				
到達目標	(1) 乳幼児期の発達過程における発達の遅れの障害像を説明でき、評価を理解できた。 (2) 学童・青年期の発達過程における発達の遅れの障害像を説明でき、評価を理解できた。 (3) 感覚統合の発達過程における発達の遅れの障害像を説明でき、評価を理解できた。 (4) 心理的機能障害の障害像を説明でき、評価を理解できた。 (5) 社会的機能障害の障害像を説明でき、評価を理解できた。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	発達障害（発達過程）作業療法 理念・目的・発達年齢・発達障害	11	(1) 視覚機能機能障害の評価 EDPA・VPDT・TVPS
2	評価とは（障害像と全体像） 発達課題と遂行要素、ICF	12	ADL評価
3	各疾患の症状と障害 生活機能と障害、能力と実行状況	13	JASPER、摂食嚥下評価
4	発達段階の理解	14	上肢機能障害の評価 EDPAとMAT（上肢）
5	全般的評価 JDDST-R	15	職業レディネス
6	全般的評価 遠城寺式乳幼児分析的発達検査	16	社会的機能評価
7	姿勢反射検査 ミラニー発達検査	17	感覚統合障害・学習障害の評価 SCSIT・JMAP
8	運動機能障害の評価と障害像	18	脳性麻痺の評価
9	粗大運動の評価（GMFM）	19	脳性麻痺の評価
10	微細運動の評価 上肢MAT、EDPA	20	試験

講義方法

座学と演習を行う。

講義で使用する機器・教材

i P a d、配布資料

履修上の注意事項

- 1 人間発達学の教科書の内容を、何度も振り返ることによって知識の定着を図ること。
- 2 人間発達過程（発達段階、発達課題）と障害像の関係を理解する。
- 3 クリアファイルを用意して、検査用紙などは、なくさないように整理整頓すること。

成績評価方法

期末試験70%、課題20%、授業態度10%で評定します。

教科書 ※4冊を使用します。

- 1 作業療法学全書第6巻 作業治療学3 発達障害
- 2 作業療法学全書第3巻 作業療法評価学
- 3 標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学
- 4 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 人間発達学

予習復習のアドバイス

- 1 人間発達学の教科書の内容を、何度も振り返ることによって知識の定着を図り、発達過程を覚える。
- 2 k e y w o r dは、自分なりに調べて、理解をすること。
- 3 自ら、関連する過去の国家試験問題を探し、解いてみる。分からない時には、即解決すること。

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	前期		
学 科	作業療法科	学 年	2学年		
科目名	高齢期障害作業療法評価学	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20
講師名	石川 陽子	単位時間数	30	単位数	2
到達目標	高齢作業療法の意義を理解し、高齢者の特徴を捉えた上で、クライアントを中心とした個別的な生活支援サービスに必要な評価の具体的内容を理解し、実施することができる。評価から得られた情報を、有効なアプローチのために統合することができる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	オリエンテーション 高齢者へ作業療法は何故行われる？	11	評価の流れ・評価法 どのような人かを知るには？
2	高齢者を理解するために 高齢者の身体的変化	12	評価の流れ・評価法 どのような人かを知るには？
3	高齢者を理解するために 高齢者の身体的変化（GW）	13	評価の流れ・評価法 どうなりたいかを知るには？
4	高齢者を理解するために 高齢者の身体的変化（FB）	14	評価の流れ・評価法 どうやっているのかを知るには？
5	高齢者を理解するために 時代背景，ライイベント	15	評価の流れ・評価法 どうやってるのかを知るには？
6	高齢者を理解するために 高齢社会	16	評価の流れ・評価法 何故こうなっているのかを知るには？
7	高齢者を理解するために 環境	17	評価の流れ・評価法 どうなればいいのかを知るには？
8	高齢者を理解するために ライフステージ，QOL，4つの喪失	18	評価の流れ・評価法 どうすればなれるかを知るには？
9	高齢者を理解するために 役割，ライフスタイル，作業バランス	19	評価の流れ・評価法
10	高齢者の作業療法評価の視点 評価の流れ・手順	20	評価の流れ・評価法

<p>講義方法</p> <p>主に座学での講義となり，教科書，PowerPoint，iPadを使用する。 講義内容によってはグループを組んで演習を行うこともある。</p>
<p>講義で使用する機器・教材</p> <p>ハンドアウト（適宜配布する），PC，プロジェクター</p>
<p>履修上の注意事項</p> <p>グループでの演習も行うことがあるため，自分の欠席がほかのグループメンバーや課題に与える影響をよく考えること。</p>
<p>成績評価方法</p> <p>期末筆記試験（100％）で評価する。 また，出席時数が授業時数の2/3に達しないものは，評価できない。</p>
<p>教科書 作業療法全書改訂第3版 老年期 協同医書出版</p>
<p>参考書 標準作業療法学専門分野 高齢期作業療法学 医学書院 高齢者のその人らしさを捉える作業療法 文光堂</p>
<p>予習復習のアドバイス</p> <p>評価学は「知りたいことを知るための方法」を説明する学問である。 習った評価法で自分対象者の何を知ることができるのかを明確にするような復習が望ましい。</p>

講義要項（シラバス）

年 度	2019 年度	時 期	前期		
学 科	作業療法科	学 年	2学年		
科目名	作業療法治療学総論	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20
講師名	上遠野純子	単位時間数	30	単位数	2
到達目標	作業療法実践における理論と研究の関連をどのように実行するかを決定する方法を知る。				
回数	講義内容	回数	講義内容		
1	総論と各論 作業療法の基本原理と目的	11	介入方略5 作業遂行アプローチ		
2	目標設定の方法	12	介入方略6 代償的・補装具的アプローチ		
3	病期別における作業療法	13	介入方略7 就労支援		
4	領域別作業療法	14	介入方略8 集団理論的(対人関係技術) アプローチ		
5	障害別作業療法	15	介入方略9 精神分析的アプローチ		
6	介入方略1 生体力学的アプローチ	16	介入方略10 行動理論的アプローチ		
7	介入方略2 運動制御的アプローチ	17	ケースレポートの書き方		
8	介入方略3 感覚統合的アプローチ①	18	実習演習①		
9	介入方略3 感覚統合的アプローチ②	19	実習演習②		
10	介入方略4 発達理論的アプローチ	20	実習演習③		
講義方法					
パワーポイントを使用する。適宜板書を行う。					
講義で使用する機器・教材					
講義では、教科書を使用し、適宜、資料としてプリントを配布する。					
成績評価方法					
学期末試験（70%）、レポート課題提出（20%）、授業態度（10%）によって総合的に成績を評価する。					
教科書					
日本作業療法士協会 監修 作業療法学全書”作業療法学概論” 協同医書 日本作業療法士協会 監修 作業療法学全書”基礎作業学” 協同医書					
参考書					
標準作業療法学 専門分野 基礎作業学第3版 医学書院 ギャーリー・キールホフナー著 作業療法の理論 原書第3版 医学書院					
予習復習のアドバイス					
すべて、データにて資料を配布します。Ipadを必ず、持参してください。					

講義要項（シラバス）

年 度	2019 年度	時 期	通年		
学 科	作業療法学科	学 年	2学年		
科目名	身体障害作業療法治療学	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	60
講師名	藤井貴／淀川 裕美／矢野 大輔	単位時間数	90	単位数	6
講義目標	一般目標				
	身体障がい領域において対象とする疾患の臨床像と生活機能、障害について医学的な治療と作業療法の治療・指導・援助の内容が理解できる。				
	到達目標				
身体障がい作業療法の現状を知り、疾がい別にその治療計画立案、治療過程、効果判定の方法を理解する。また、各障がい像へ用いられる治療テクニックの理論、方法を習得する。各病期における作業療法の役割を明確にし、安全にまた適切に、迅速に治療が実施出来るようになる。					

回数	講義内容	回数	講義内容
1	作業療法と評価、OTの役割、病期別	11	関節可動域測定
2	作業療法と評価、OTの役割、病期別	12	関節可動域測定
3	OT評価の流れ、評価項目、関連法規	13	筋力検査
4	OT評価の流れ、評価項目、関連法規	14	筋力検査
5	記録・報告の意義と特徴	15	感覚検査
6	記録・報告の意義と特徴	16	感覚検査
7	面接、観察	17	筋緊張検査/ 反射検査
8	面接、観察	18	筋緊張検査/ 反射検査
9	形態計測	19	姿勢反射検査
10	形態計測	20	姿勢反射検査

回数	講義内容	回数	講義内容
21	動作分析	41	疾患別作業療法 末梢神経疾患/慢性疼痛
22	動作分析	42	疾患別作業療法 骨関節疾患
23	上肢機能検査 (B r stage、MFT)	43	疾患別作業療法 骨関節疾患
24	上肢機能検査 (B r stage、MFT)	44	疾患別作業療法 骨関節疾患
25	上肢機能検査 (B r stage、MFT)	45	神経・筋疾患の作業療法 (ALS/MyD/MS/GBS)
26	上肢機能検査 (B r stage、MFT)	46	神経・筋疾患の作業療法 (ALS/MyD/MS/GBS)
27	協調性検査	47	神経・筋疾患の作業療法 (ALS/MyD/MS/GBS)
28	協調性検査	48	疾患別作業療法 関節リウマチ
29	脳血管疾患の作業療法 疾病の理解	49	疾患別作業療法 関節リウマチ
30	脳血管疾患の作業療法 評価と目標設定	50	疾患別作業療法 関節リウマチ
31	脳血管疾患の作業療法 治療	51	疾患別作業療法 熱傷
32	脳血管疾患の作業療法 治療	52	疾患別作業療法 熱傷
33	脊髄損傷の作業療法 作業療法の実際	53	疾患別作業療法 腫瘍性疾患
34	脊髄損傷の作業療法 作業療法の実際	54	疾患別作業療法 腫瘍性疾患
35	脊髄損傷の作業療法 作業療法の実際	55	疾患別作業療法 内部障がい・循環器
36	脊髄損傷の作業療法 作業療法の実際	56	疾患別作業療法 内部障がい・循環器
37	脊髄損傷の作業療法 作業療法の実際	57	神経難病と作業療法 パーキンソン病の治療
38	脊髄損傷の作業療法 作業療法の実際	58	疾患別作業療法 手の外科
39	疾患別作業療法 末梢神経疾患/慢性疼痛	59	疾患別作業療法 手の外科
40	疾患別作業療法 末梢神経疾患/慢性疼痛	60	疾患別作業療法 手の外科

講義方法

講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料としてプリントを配布する。

講義で使用する機器・教材

PC、プロジェクター

履修上の注意事項

提示資料の内容だけではなく、講義内容を忘れない為にも記録をとる。

課題レポートは評価対象となる為、必ず提出する。

課題提出に関しては時間厳守、期日を守ることを周知する。

評価方法実技を踏まえ理解する。

実技指導を加える為、実習着での講義がある。

成績評価方法

実技試験（50％）学期末試験（50％）で成績を評価する。

授業態度、実技参加態度も評定の対象とする。

また適宜レポート作成を行い、評定のための資料とする。

教科書

作業療法学全書改定第3版 作業療法治療学 1 身体障害、標準作業療法学 身体機能作業療法学第3版

参考書

作業療法学全書改訂第3版 作業療法評価学、標準作業療法学 作業療法評価学第3版
理学療法評価学 第4版 金原出版

リハビリテーション基礎評価学 第1版 羊土社

予習復習のアドバイス

- ・教科書に合わせて講義を進める為、計画的に予習を行う。
- ・講義での疑問、質問に関しては放置することなく迅速に対応する。
- ・ipadを活用し、学習効果を高める。
- ・評価実習で活用できるよう知識、技術の蓄積を行う。

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	前期		
学 科	作業療法科	学 年	2学年		
科目名	高次脳機能障害作業療法治療学	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20
講師名	淀川 裕美	単位時間数	30	単位数	2
講義目標	一般目標				
	高次脳機能障害の作業療法における実践と事例からアプローチの仕方を学ぶ。				
	到達目標				
	作業療法士が援助する高次脳機能障害者に対しての実践方法を身につけ、臨床実習や卒後業務に生かすことができる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	高次脳機能障害と作業療法 概要	11	高次脳機能障害の分類と類型 半側空間無視①～半側空間無視とは～
2	高次脳機能障害の基礎知識② ～脳の障害部位と症状の関連～	12	機能障害別アプローチの実際 半側空間無視②～治療の実際～
3	高次脳機能障害の分類と類型 失語症①～失語症とは～	13	高次脳機能障害の分類と類型 記憶障害①～記憶障害とは～
4	機能障害別アプローチの実際 失語症②～治療の実際～	14	機能障害別アプローチの実際 記憶障害②～治療の実際～
5	高次脳機能障害の分類と類型 失行①～失行とは～	15	高次脳機能障害の分類と類型 遂行機能障害・前頭葉症状～遂行機能障害・ 前頭葉症状とは～
6	機能障害別アプローチの実際 失行②～治療の実際～	16	機能障害別アプローチの実際 遂行機能障害・前頭葉症状～治療の実際～
7	高次脳機能障害の分類と類型 失認①～失認とは～	17	高次脳機能障害の分類と類型 ～感情と行動の障害とは～
8	機能障害別アプローチの実際 失認②～治療の実際～	18	患者に対する家族や支援者の接し方
9	高次脳機能障害の分類と類型 注意障害①～注意障害とは～	19	画像に見る高次脳機能障害 CT・MRIによる脳画像
10	機能障害別アプローチの実際 注意障害②～治療の実際～	20	まとめ

講義方法

- ①講義形式での学習。
- ②症例を検討してアプローチの知識を深める。

講義で使用する機器・教材

資料としてプリントを配布する。適宜、パワーポイントを使用する。

履修上の注意事項

臨床実習を想定しながら授業に臨んでください。

成績評価方法

学期末試験（100％）によって成績を評価する。

教科書

作業療法治療学5 「高次脳機能障害」 協同医書出版社

参考書

リハビリスタッフ・支援者のための 高次脳機能障害

予習復習のアドバイス

授業で配布されたプリント資料などを内容別に整理して後日テストに利用できやすいようにする。

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	通年		
学 科	作業療法学科	学 年	2 学年		
科目名	精神障害作業療法治療学	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	60
講師名	酒井 良隆	単位時間数	90	単位数	6
講義目標	一般目標				
	作業療法の基本的実践論から、疾患・障害別の作業療法の実際について理解する。				
	到達目標				
	作業療法の構造と実践形態、そのプロセスを理解する。 対象となる疾患の病理、障害像を理解し、作業療法の目的、留意点について理解する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	オリエンテーション	11	統合失調症②
2	作業療法の治療構造と構成要素	12	統合失調症③
3	作業療法の実践形態と場	13	統合失調症④
4	作業療法の導入から評価	14	統合失調症⑤
5	作業療法実施計画からアフターフォロー	15	気分（感情）障害①
6	回復状態に応じた作業療法の役割	16	気分（感情）障害②
7	回復状態に応じたチーム医療	17	気分（感情）障害③
8	回復状態に応じた心理教育プログラム	18	気分（感情）障害④
9	回復状態に応じた家族支援	19	気分（感情）障害⑤
10	統合失調症①	20	まとめ

回数	講義内容	回数	講義内容
21	神経症性障害①	41	制度・社会資源の利用①
22	神経症性障害②	42	制度・社会資源の利用②
23	神経症性障害③	43	制度・社会資源の利用③
24	摂食障害①	44	制度・社会資源の利用④
25	摂食障害②	45	就学・就労支援①
26	パーソナリティ障害①	46	就学・就労支援②
27	パーソナリティ障害②	47	就学・就労支援③
28	児童・思春期の精神障害①	48	当事者活動の支援・家族支援
29	児童・思春期の精神障害②	49	心神喪失者等医療観察法①
30	てんかん①	50	心神喪失者等医療観察法②
31	てんかん②	51	心理教育・リカバリーモデル
32	アルコール・薬物依存①	52	認知行動療法（講義） 社会生活技能訓練 SST（講義）
33	アルコール・薬物依存②	53	社会生活技能訓練 SST（演習）
34	生活環境と家族関係の アセスメント①	54	芸術療法・園芸療法・森田療法
35	生活環境と家族関係の アセスメント②	55	実践マネジメント①
36	生活技能のアセスメントと開発①	56	実践マネジメント②
37	生活技能のアセスメントと開発②	57	臨床実習対策①
38	訪問作業療法と生活支援①	58	臨床実習対策②
39	訪問作業療法と生活支援②	59	臨床実習対策③
40	訪問作業療法と生活支援③	60	臨床実習対策④

講義方法
講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料データまたはプリントを配布する。
講義で使用する機器・教材
PC、プロジェクター、iPad
履修上の注意事項
資料のみでなく、話している内容など、どんどん情報を蓄積すること。
成績評価方法
学期末試験（100％）によって成績を評価する。
教科書
標準作業療法学 専門分野 精神機能作業療法学 第2版 医学書院
参考書
作業療法学全書改訂第3版 作業療法評価学
精神障害と作業療法 第3版 三輪書店
作業療法学全書改定第3版 作業療法治療学2 精神障害
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 医学書院
作業療法学 ゴールドマスターテキスト6 精神障害作業療法学 メジカルビュー社
予習復習のアドバイス
<ul style="list-style-type: none"> ・事前に教科書を読んで、予習をすること。 ・自分でわからないことがあったら、そのままに放置せず、必ずわかるまで調べるか、わかるまで聞くこと。それも、その時、その日のうちに。 ・放置している時間が長ければ、それだけわからないことが増えてくる。

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	通年		
学 科	作業療法科	学 年	2 学年		
科目名	発達障害作業療法治療学	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	40
講師名	上遠野純子／淀川裕美／酒井良隆	単位時間数	60	単位数	2
講義目標	一般目標				
	運動発達系（心身障害）と精神障害系（知的障害、発達障害）の各疾患・障害における作業療法を説明出来る。				
	到達目標				
	精神心理系 【知的障害、小児期および青年期に通常発症する行動および情動の障害（広汎性発達障害、注意欠陥多動、学習障害を含む）、てんかん】				
	神経筋系 【筋ジストロフィー】				
運動発達系 【脳性麻痺、二分脊椎、運動発達遅滞、重症心身障害（Down症を含む）】 上記疾患の作業療法過程を説明出来る。					

回数	講義内容	回数	講義内容
1	脳性麻痺	11	二分脊椎
2	脳性麻痺	12	二分脊椎
3	脳性麻痺	13	骨関節疾患
4	脳性麻痺	14	骨関節疾患
5	脳性麻痺	15	内部障害
6	脳性麻痺	16	内部障害
7	脳性麻痺	17	摂食嚥下障害
8	脳性麻痺	18	摂食嚥下障害
9	脳性麻痺	19	摂食嚥下障害
10	脳性麻痺単元テスト	20	単元テスト

回数	講義内容	回数	講義内容
1	知的能力障害 (intellectual Disabilities)	11	自閉スペクトラム障害 (Autism Spectrum Disorder)
2	知的能力障害 (intellectual Disabilities)	12	注意欠如・多動性障害 (Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder)
3	知的能力障害 (intellectual Disabilities)	13	注意欠如・多動性障害 (Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder)
4	知的能力障害 (intellectual Disabilities)	14	注意欠如・多動性障害 (Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder)
5	知的能力障害 (intellectual Disabilities)	15	注意欠如・多動性障害 (Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder)
6	知的能力障害 (intellectual Disabilities)	16	単元テスト
7	単元テスト	17	重症心身障害
8	自閉スペクトラム障害 (Autism Spectrum Disorder)	18	重症心身障害
9	自閉スペクトラム障害 (Autism Spectrum Disorder)	19	重症心身障害
10	自閉スペクトラム障害 (Autism Spectrum Disorder)	20	単元テスト

講義方法

座学、課題演習

講義で使用する機器・教材

プロジェクター、ビデオ、Ipadを適宜使用する。

履修上の注意事項

- 1、人間発達学の教科書の内容を、何度も振り返ることによって知識の定着を図ること。
- 2、人間発達過程（発達段階、発達課題）と障害像の関係を理解する。
- 3、疾患・障害を各科の教科書から情報を収集し、まとめておくこと。

成績評価方法

各疾患ごとの単元テストを実施する。演習課題の遂行状況に応じて総合評定を行う。

教科書

- 1、作業療法学全書第6巻 作業療法治療学3 発達障害
- 2、作業療法治療学第3巻 作業療法評価学
- 3、標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 人間発達学

参考書

標準作業療法学 専門分野 発達過程作業療法学

予習復習のアドバイス

- 1、人間発達学の教科書の内容を、何度も振り返ることによって知識の定着を図り発達過程を覚える。
- 2、key wordは、自分なりに調べてまとめる。
- 3、自ら、関連する過去の国家試験問題を探し、解いてみる。分からないことは、即解決すること。

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	通年		
学 科	作業療法科	学 年	2学年		
科目名	高齢期障害作業療法治療学	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20
講師名	石川 陽子	単位時間数	30	単位数	2
講義目標	一般目標				
	高齢者を対象とした作業療法では、身体・精神的な老化現象を踏まえた上で、人生の総括と統合を促進するよう努める必要がある。本講義では、これに必要な具体的な作業療法アプローチの知識を得て、ゴール設定とそれに見合ったプラン作成を行うことを目的とする。				
	到達目標				
高齢期作業療法の意義を理解し、高齢者の特徴を捉えた上で、クライアントを中心とした個別的な生活支援サービスに必要な介入アプローチについて説明できる。また、具体的なクライアント例を検討し、評価、目標設定、介入プログラムの立案といった作業療法プロセスを説明することができる。					

回数	講義内容	回数	講義内容
1	認知症の理解	11	治療技法（治療技術） SI, 作業回想法, RO, など
2	認知症の理解	12	治療技法（環境設定） 食形態, 自助具選択
3	オリエンテーション 事例紹介と解説	13	高齢期の作業療法（ケース検討）
4	高齢期に注意すること	14	高齢期の作業療法（ケース検討）
5	高齢期に注意すること	15	高齢期の作業療法（ケース検討）
6	高齢期に注意すること	16	高齢期の作業療法（ケース検討）
7	介入アプローチ 予防, 適応, 回復	17	高齢期の作業療法（ケース検討）
8	介入アプローチ 環境から, 遂行技能から, 習慣形成から	18	高齢期の作業療法（ケース検討）
9	治療理論（MOHO, CMOP, ICF）	19	高齢期の作業療法（ケース検討）
10	治療技法（治療構造） グループ活動, 個別活動	20	高齢期の作業療法（ケース検討）

講義方法

主に座学での講義となり，教科書，パワーポイントを使用する。
ケース検討はグループワークとなる（予定）。

講義で使用する機器・教材

通常講義：ハンドアウト（適宜配布する），PC，プロジェクター

履修上の注意事項

ケース検討はグループワークであるため，欠席することによる他者への影響をよく考えて行動すること

成績評価方法

期末筆記試験（100％）で評価する。
また，授業全体の1/3以上を無断欠席の場合，成績評価できない。

教科書

作業療法全書改訂第3版第7巻 老年期

参考書

標準作業療法学専門分野 高齢期作業療法学 医学書院
高齢者のその人らしさを捉える作業療法 文光堂

予習復習のアドバイス

作業療法を展開する上で重要なのは，思考過程である。
資料を暗記するのではなく，何故そうなのかを考える復習をおこなって欲しい。

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	後期		
学 科	作業療法学科	学 年	1 学年		
科目名	日常生活活動技術論	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20
講師名	淀川 裕美	単位時間数	30	単位数	2
講義目標	一般目標				
	日常生活活動の概要を理解し作業療法場面に展開できる知識・技術を得る。				
	到達目標				
	臨床実習・卒後の臨床場面において、対象者に必要なADLの支援を実践できる知識と技術を得る。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	ADLとは・各動作について	11	SCDのADL
2	ADLの各項目について	12	SCDのADL
3	ADL評価について	13	ALSのADL
4	ADL評価について	14	ALSのADL
5	脳血管障害のADL	15	筋ジスのADL
6	脳血管障害のADL	16	筋ジスのADL
7	パーキンソン病のADL	17	リウマチのADL
8	パーキンソン病のADL	18	リウマチのADL
9	脊髄損傷のADL	19	各疾患におけるADL支援
10	脊髄損傷のADL	20	ADL支援のまとめ

講義方法

講義形式を主として実技を適宜取り入れる。

講義で使用する機器・教材

onedriveに提示される講義資料を事前にダウンロードすること。

履修上の注意事項

重要事項を重ねて説明するため聞き逃さないよう留意をする。

成績評価方法

試験結果を8割とし、履修（出席・取り組み）状況を2割とする。

教科書

「作業療法学全書 作業療法技術学3 日常生活活動」を使用

予習復習のアドバイス

都度の講義を理解し、不明な点は質問等で補うこと。

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	通年		
学 科	作業療法学科	学 年	2 学年		
科目名	義肢・装具技術論	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20
講師名	上遠野純子	単位時間数	30	単位数	2
講義目標	一般目標				
	対象とする障害像に合わせて使用する義肢・装具の、臨床での治療的適合方法や動作練習指導の方法を学習する。実習を通して、義肢・装具の臨床場面での適切な選択や適合、治療的介入を行える技術を身につける。				
	到達目標				
	義肢についてはその特性について模擬義肢の装着などを通して理解を深める。装具や自助具については、臨床場面で頻繁に活用されるものを中心に実際に作製し、製作技術を習得する。義肢装具のチェックアウト技法を身に付ける。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	義肢とは、装具とは 義肢の歴史的背景	11	スプリント実習（掌側型カックアップ スプリント）～モールディング、加工
2	義肢の構造理解	12	スプリント実習（掌側型カックアップ スプリント）～チェックアウト
3	義手の構成要素と機能について	13	自助具製作（更衣動作関連用） ソックスエイド
4	義手装着前訓練及び装着訓練に ついて	14	自助具製作（更衣動作関連用） ソックスエイド
5	義手のチェックアウト（前腕義手） （実技）	15	自助具製作（食事・整容動作関連用） 太柄スプーンもしくは台付き爪切り
6	義手のチェックアウト（上腕義手） （実技）	16	自助具製作（食事・整容動作関連用） 太柄スプーンもしくは台付き爪切り
7	義足の構成要素と機能について	17	自助具製作（食事・整容動作関連用） 太柄スプーンもしくは台付き爪切り
8	義足のチェックアウト	18	スプリント演習（手指用） *レナサーム使用による演習
9	スプリント実習（基礎演習）	19	スプリント実習（短対立スプリント） *レナサーム使用による演習
10	スプリント実習（掌側型カックアップ スプリント）～型紙フィッティング、カッティング	20	スプリント実習（短対立スプリント） *レナサーム使用による演習

講義方法

講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料としてプリントを配布する。

講義で使用する機器・教材

PC、プロジェクター

履修上の注意事項

主に製作実習になるので、使用する道具の準備や後片付けはきちんと行う。怪我のないように細心の注意を払うこと。

成績評価方法

学期末試験（50%）や出席率（20%）と併せて、実習では製作後のレポート提出（20%）と出来栄え（10%）によって評定する。

教科書

作業療法学全書改定第3版 作業療法技術学1 義肢装具学

予習復習のアドバイス

事前に教科書を読んで、予習をすること。

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	後期		
学 科	作業療法科	学 年	3学年		
科目名	地域作業療法学	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20
講師名	淀川 裕美	単位時間数	30	単位数	2
講義目標	一般目標				
	地域リハビリテーションの概要を理解し作業療法に展開できる知識を得る。				
	到達目標				
	地域作業療法の概要をふまえ、臨床の場で地域リハにおいて作業療法が担う役割を理解している。				
回数	講義内容	回数	講義内容		
1	地域リハビリテーションとは	11	実践事例（病院・介護老人保健施設）		
2	地域作業療法とは	12	実践事例（通所介護施設）		
3	地域作業療法における制度	13	実践事例（身体障害者福祉施設・リハセンター）		
4	社会生活支援・連携について	14	実践事例（訪問作業療法）		
5	地域作業療法の枠組み	15	実践事例（地域包括支援センター）		
6	個別支援について・集団支援・地域づくり	16	実践事例（介護老人福祉施設）		
7	青葉病院 ボランティア学習	17	実践事例（発達支援・地域生活移行支援）		
8	青葉病院 ボランティア学習	18	実践事例（就労支援・在宅（終末期））		
9	青葉病院 ボランティア学習	19	在宅支援（終末期・難病支援・リスク管理）		
10	青葉病院 ボランティア学習	20	地域作業療法 まとめ		
講義方法					
講義形式で実施する。前半10コマは臨床を基礎とした講義と本科目中の基礎知識について後半10コマは基礎知識のまとめを中心とした事例検討等を行う。					
講義で使用する機器・教材					
地域作業療法学 第2版 （医学書院 標準作業療法学 専門分野）					
履修上の注意事項					
講義時間内に受講内容が修得できるよう、配布プリントも熟読する。 単元ごとのまとめを実施し、内容理解を促すよう講義を行う。					
成績評価方法					
試験を実施し評価					
教科書					
地域作業療法学 第2版 （医学書院 標準作業療法学 専門分野）					
予習復習のアドバイス					
単元ごとのまとめにそって復習を行うこと。					

講義要項（シラバス）

年 度	2019 年度	時 期	後期		
学 科	作業療法学科	学 年	3 学年		
科目名	住環境整備・福祉用具活用論	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20
講師名	藤井 貴	単位時間数	30	単位数	2
講義目標	一般目標				
	対象者の生活を豊かにし、自立生活に用いる福祉用具について、その種類と機能、特性、選定、適合を学び理解する。医療・福祉制度を加味した住環境整備、実践例を把握する。				
	到達目標				
	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉用具の理論的な位置づけや評価の基本的方針を理解する。 ・疾患別の福祉用具活用、具体的な選定・適合方法を学習する。 ・住環境整備に必要な基本的な知識を把握し、実践で活用される技術を獲得する。 ・障がいの特徴に合わせた住宅改修の考え方と作業療法士の役割を理解する。 				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	オリエンテーション 福祉用具総論	11	車椅子調整の実際
2	福祉用具の運用 福祉用具と作業療法士の役割	12	車椅子調整の実際
3	福祉用具適応論	13	疾患別の福祉用具利用
4	福祉用具展示会場見学 (<u>仙台市シルバーセンター</u>)	14	疾患別の福祉用具利用
5	<u>県リハセンター</u> 見学	15	疾患別の福祉用具利用
6	<u>県リハセンター</u> 見学	16	疾患別の福祉用具利用
7	疾患別の福祉用具利用	17	疾患別の福祉用具利用
8	疾患別の福祉用具利用	18	疾患別の福祉用具利用
9	障がい別住宅改造の留意点	19	建築の基礎知識 ① 住宅改造
10	障がい別住宅改造の留意点	20	建築の基礎知識 ② 住宅改造

講義方法

講義では、教科書を使用する。また、適宜、資料としてプリントを配布する。
見学実習により、総合的な知識を学習をする。

講義で使用する機器・教材

PC、プロジェクター、ipad

履修上の注意事項

提示資料の内容だけではなく、講義内容を忘れない為にも記録をとる。
見学実習に関しては、欠席しないよう注意する。
見学実習に関しては、事前に注意事項を伝え、実施する。

成績評価方法

講義内テスト（100％）によって評価する。

教科書

作業療法学全書改定第3版 作業療法技術学10 福祉用具の使い方・住環境整備 協同医書出版

参考書

標準作業療法学 社会生活行為学 医学書院

理学療法テキストX 生活環境論 九州神陵文庫

作業療法ジャーナル6月増刊号 居住支援ガイドブック Vol.39 No.7 2005 三輪書店

作業療法ジャーナル6月増刊号 テクニカルエイド Vol.46 No.7 2012 三輪書店

予習復習のアドバイス

- ・教科書の目次に合わせて講義を進める為、計画的に予習を行う。
- ・講義での疑問、質問に関しては放置することなく迅速に対応する。
- ・ipadを活用し、学習効果を高める。
- ・柔軟な思考でひとの生活をイメージする。

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	後期		
学 科	作業療法科	学 年	3学年		
科目名	職業関連活動技術論	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20
講師名	酒井 良隆	単位時間数	30	単位数	2
講義目標	一般目標				
	人にとっての就業の意義を探り、障害者の就労について考える。				
	到達目標				
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者の就労援助体制の現状を認識する。 ・ 職業リハビリテーションにおける作業療法の意義と役割について理解を深める。 				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	オリエンテーション	11	身体障害における就労支援②
2	人と職業	12	高次脳機能障害における 就労支援①
3	人の職業的発達	13	高次脳機能障害における 就労支援②
4	障害者の就労	14	職業リハビリテーションにおける 作業療法の意義
5	職業リハビリテーション	15	職業リハビリテーションにおける 作業療法士の役割
6	障害者の就労援助体制の現状	16	職業リハビリテーションにおける 作業療法計画
7	精神障害における就労支援①	17	障害者職業センターにおける 就労支援の実際
8	精神障害における就労支援②	18	ハローワークにおける 就労支援の実際
9	知的障害における就労支援	19	就労移行支援事業所における 就労支援の実際
10	身体障害における就労支援①	20	就労継続支援事業所A・B型 における就労支援の実際

<p>講義方法</p> <p>講義内容により、外部演習、講義のスタイルをとる。</p>
<p>講義で使用する機器・教材</p> <p>PC、iPad、スクリーン、プロジェクター</p>
<p>履修上の注意事項</p> <p>今後有資格者となってからの自身のあり方について考える事や、障害者の就労支援の一助となるために必要不可欠な学習内容であるため、しっかりと理解に努める事。</p>
<p>成績評価方法</p> <p>学期末試験（100％）にて成績を評価する。</p>
<p>教科書</p> <p>作業療法学全書改定第3版 作業療法技術学4 職業関連活動 協同医書出版</p>
<p>参考書</p> <p>標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第2版 医学書院 職業リハビリテーション学 キャリア発達と社会参加に向けた就労支援体系 改訂第2版 協同医書出版 作業療法ジャーナル6月増刊号 働くことの意義と支援 Vol.43 No.7 2009 三輪書店</p>
<p>予習復習のアドバイス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に教科書を読んで、予習をすること。 ・自分でわからないことがあったら、そのままに放置せず、必ずわかるまで調べるか、わかるまで聞くこと。それも、その時、その日のうちに。 ・放置している時間が長ければ、それだけわからないことが増えてくる。